

1 学校教育目標

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 よく考え自ら学ぶ生徒 | 2 正しく判断し実行する人 |
| 3 礼儀正しく情操豊かな人 | 4 心身ともに健康な人 |

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者・地域に信頼され、入学したいと思う学校、入学してよかったと思う学校、卒業してもよかったと思う学校 ○ 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する学校 ○ 果敢に挑戦し、未来を切り拓く資質・能力を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習、学校行事、部活動等に主体的・積極的に取り組む生徒 ○ 一人一人が湊江中の代表としての自覚をもち、他を思いやる心をもち、互いに高め合う生徒 ○ 明るく、元気で、前向きに学校生活をおくる生徒
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協調と協働を根底に置き、情熱と使命感に燃える教師 ○ わかる授業、魅力ある授業を追求する教師 ○ あきらめない生徒指導に徹し、信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

落ち着いた学校生活を送っている。540名を超える生徒と全教職員が一体となって取り組む行事が学校生活の全般に良い影響を与えている。落ち着いた雰囲気の中で授業が行われ学習と行事等にメリハリをつけた学校生活を送っている。知・徳・体の調和のとれた生徒の育成に向けて邁進している。

<前年度の成果と課題>

成果：補充学習等により生徒が意欲的に学習。家庭学習ノート提出の定着化。あいさつができる。

課題：わかる授業の展開と発展的な学習指導。学力調査結果における数値向上。自主的に学習する習慣の確立。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H30	R1	R2	R3	R4
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	秩序と活力のある学校生活	○	○	○	○	○
3	小中連携とOJTを生かした教員一人一人の指導力向上	○	○	○	○	○

5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1									
学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
①平成 30 年度学力調査結果の目標通過率に前年度比 2%増 ②年度末復習確認テストの目標正答率		50% (①②ともに)		①53.8% (前年度48.7%) ②未実施 (R1.1.15 現在)		全体としては目標通過率を大きく超えることができた。しかし3年の数学、2, 3年の英語の通過率が50%に達しなかったことが課題として残った。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	授業改善・授業力向上	全教科担当	年間	<ul style="list-style-type: none"> 全教員が年2回、指導案を全教員に配布して公開授業を行う。 授業後に管理職等と共に授業改善に向けた協議の場を設ける。 小中連携活動の中で授業公開・研究授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業アンケート年間3回 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業への興味・関心・理解・質問等についての肯定的回答の上昇 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の公開授業、小中連携における研究授業等、予定通りに実施した。 授業がわかりやすいという生徒の肯定的回答は82.4%、授業が楽しいは76.0%である。 	<ul style="list-style-type: none"> ようやく授業改善の端緒についた。生徒の主体的な学びのために、ねらい、振り返り、質問等について取組を進める。 	△
2 継続	コンテスト補充	全学年 英語・数学・国語 各コンテスト 正答率80%未満	各教科 年1回	<p>【指導体制】学年担当教員</p> <p>【取組内容、ねらい・目的】 上記戦略にある内容を重点的に学習し、同内容でテストする。その正答率80%未満を対象に補充する。再テスト、および復習。</p> <p>【使用教材】プリント教材(国、数、英)</p>	正答率80%になるまで補習および、再テスト	コンテスト後約2週間までに実施する再テストで対象者が目標値を通過する割合が100%	<ul style="list-style-type: none"> 再テストにより目標値を全員が通過した(100%)。 	<ul style="list-style-type: none"> コンテストに向けて全校体制で取組を進めた。事前・事後の補充により学習に対する生徒の意識は高まった。 各教科年1回のコンテストによる効果について検討する必要がある。 	○

3 継続	サマースクール (基礎コース)	全学年 国語・数学・英語 目標値未 満 各学年約 30名程度 を募集	夏休み 期間中 の7日 各日50 分	<p>【指導体制】 教科担任1名+学年サポ ートメンバー1名</p> <p>【取組内容、ねらい・目的】 当該年度の前半期の 内容でつまずきおよ び学力調査の目標正 答率が高い問題で、本 校の生徒の達成率が 低い問題の未定着を 解消する。T1が問題 の説明を行い、T2が 机間指導をすること で解消を図る。</p> <p>【使用教材】プリント教材</p>	サマースク ール終了後、確 認テストおよ び定期テスト で確認	夏休み終了後 の確認テスト で全員の正答 率を20%の上 昇 できなかった 場合、冬休みの 宿題でもう一 度勉強し直す。	<ul style="list-style-type: none"> ・正答率が20%以上 上昇した生徒は、参 加生徒の95%であ った。 ・20%以下の生徒に は宿題によって定着 を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対象生徒に対する 個別指導の充実が課 題である。 ・さらに、ドリル学 習の繰り返し等によ って定着度を高める 必要がある。 	△
4 継続	家庭学習 の習慣化	全学年 全員 数学 英 語	各教科 週1回 3か月 間	<p>【取組内容、ねらい・目的】 毎日2ページの家庭 学習ノートを提出。 週2回分の学習内容を区 学力調査の正答率の低い 問題が定着するような内 容に限定する。</p>	宿題提出状況 調査	全学年宿題提 出率を80%に する	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題提出率は1, 2年生が97%。3年 生が93%であり、達 成目標を超えること ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提出率は高 いが、家庭学習が形 式的なものになって ないか、定着度がど れくらいなのか、今 後、調査・対応する 必要がある。 	○
5 継続	1年間の 総復習	1, 2年 全員 5教科	2月中 旬～4 月	<p>【取組内容・ねらい・目的】 復習確認テストを行い、学 習内容の定着度を確認し、 定着度の低い問題を授業 で解説し、春休みの宿題で 確認</p>	宿題提出状況 調査	全員の宿題提 出率を100%	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス により復習確認テ ストを実施できず。 	<ul style="list-style-type: none"> ・春休み等に復習プ リントを配布・実施 した。 	△

重点的な取組事項－２		秩序と活力のある学校生活			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>成就感・達成感のある学校生活を堅持し、学校評価における肯定的評価 90%以上を維持する。</p>		<p>「学校が楽しい」と回答する生徒の割合 90%以上を堅持する。</p>	<p>・学校が楽しいという生徒回答は 91%であった。</p>	<p>・本校の伝統である行事への取組、徹底した生活指導等の成果が表れた。今後も生徒の感動体験を意図的・計画的につくり上げていく。</p>	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>人権尊重に配慮した個別指導</p>	<p>いじめ質問紙調査(年3回)個別面談(年3回)を実施する。</p>	<p>得た情報をもとに、即時組織対応する。</p>	<p>・大人数の生徒の中で、様々なトラブルが発生する。細やかな情報収集・共有、徹底した生活指導等により、早期発見・早期対応が可能となっている。</p>	<p>・教員数が少なく、いくつかのトラブルへの対応が遅れたことがあった。気を引き締めて本校の良さを維持する必要がある。</p>	○
<p>達成感のある行事の推進</p>	<p>90%以上の生徒が各行事での達成感を得る。</p>	<p>全校生徒から自己肯定感を高めることができるよう一人一役で役割を与える。</p>	<p>・生徒アンケートの行事への満足度は 92%である。</p>	<p>・常に全力、一人一役、生徒同士の働きかけ等により、素晴らしい行事とそれによる感動体験が生徒の健全育成につながっている。</p>	◎
<p>不登校生徒への対応</p>	<p>不登校出現率 3%以内にする。</p>	<p>教育相談部会で個に応じた対応を検討し指導に生かし組織的に対応する。</p>	<p>・過去数年間、不登校率が上昇を続け、今年度は 8.7%を超えてしまった。</p>	<p>・小学校時代から不登校傾向にある生徒が増加している。教育相談部会等で組織的対応を進めているが、今後は別室登校、他機関との連携等を強化する必要がある。</p>	△

重点的な取組事項－3		小中連携事業と教員の指導力向上			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
小中連携とOJTを活用した授業力の向上		年度末の授業診断アンケートにおける肯定的評価を90%以上	・授業がわかりやすいという生徒の肯定的回答は82.4%、授業が楽しいは76.0%である。	・楽しい、分かりやすいだけでは、これからの時代の授業への要請に答えられない。主体的・対話的で深い学びを目指し、本格的な取組を進める。	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
小中合同による授業力の向上	教科別分科会を生かした小中合同の授業研究	年2回の授業研修会を含め、年間6回の合同研修会を実施する。	・計画通りに小中連携の授業研究を進めた。さらに、今年度初めてすべての分科会に外部講師を招き、新学習指導要領も踏まえて高いレベルの研修を実施できた。	・小中両方の授業力向上はもちろんのこと、小中で共通実践すべき点を整理し、来年度の連携活動につなげる必要がある。	◎
わかる授業の展開	小学校と連携しながら全教員が研究授業を実施	小・中のつながりを意識した指導案作成と研究授業実施(全教員1回以上)	・計画通りに実施した。昨年度以前と比較して、少しずつ教員間のコミュニケーションも深まり、より核心に迫る研究を進める土壌ができあがってきている。	・新学習指導要領実施スタートに小中で1年のずれはあるが、来年度は新学習指導要領に絞って、小中のつながりを踏まえた指導案を作成することが課題である。	○
わかる授業の展開	年2回の研究授業	年2回全教員が相互に授業を公開し、指導の改善を図る。	・計画通りに実施した。すべての授業を管理職が見て、授業後にアドバイスを行った。管理職の授業観察の視点を事前に明確にすることで、さらに効果的な取組になると考える。	・授業後の検討時間を確保することが困難であった。研究授業の期間を長くする等の工夫により、授業直後に検討会が開けるようになる必要がある。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

○今年度の成果

本校の魅力ある教育活動である充実した学校行事、さらに教職員が一丸となって組織的に教育活動・生徒指導にあたる体制等、長い伝統に支えられた本校の特色を今年度も継続することができた。生徒に明確な課題を与え、生徒自らがミーティングにより主体的に全力で様々な活動に参画することで、感動体験等の大きな成果をあげている。

さらに、生徒の学力向上に向けて新たな取組が始まり、教員の意識も向上してきている。少しずつ成果も表れているところであり、この流れをさらにしっかりと定着させ、文武両道の道筋をつくりあげる基礎固めが進んでいる。

○次年度に向けた課題及び解決の方向性

新学習指導要領完全実施前年度である次年度は、その準備を確実にを行うことが最大の課題である。研修体制を強化するとともに共通実践項目を明確にし、生徒にどのような力をつけるか、どのような授業を行うか等について理解を深め、課題解決に向けて万全を期す。

一方で、ここ数年の人事異動の結果、本校の組織的な教育活動を維持していくことに困難が増し、一部の教員の負担が極端に増加している。来年度に向けても楽観視できる材料は少ない。人事面のことであり校内だけで解決できる課題ではないが、教員全体で危機感を共有し、解決策を模索していく必要がある。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

創立60周年を迎えた今年度、記念式典や祝賀会を含め、多くの行事にご協力いただき誠にありがとうございました。お陰様ですべての行事を成功裏に終了させることができました。これも保護者や地域の皆様のお力添えがあつてのことと心より感謝申し上げます。

さて、瀏江中らしさ、瀏江中の良さを維持しつつ、新しい時代に向けて本校はさらに発展しなければなりません。そのような中で、様々な課題や困難が目前に控えています。私たち教職員一同はさらに研鑽を積み、一つ一つの課題に丁寧に全力で取り組むとともに、子供たちの健全育成に向けて一層の努力をして参ります。今後とも変わらずご支援をお願い申し上げます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

生徒に全力で行事に取り組みせ、多くの感動体験により自己有用感や自尊感情を育てる。決して教員の押しつけではなく、生徒自らが声を上げ、学校生活の向上を図る。そして、それらの活動を支えるために、教師自らが生徒以上に汗をかく。この基本的な考え方が本校の教育活動の原点である。そして、そのような教育活動が長年にわたり大きな成果を上げ、生徒・保護者・地域の強い支持を得て継続していることが本校の伝統である。

そんな中で大きく変容する新時代に向けて不易と流行を見極め、第二ステージにおける本校の姿を明確にすることが求められている。今後も多方面の意見を頂戴しながら教育活動全般について方向性と目標をしっかりと定め、その実現に向けて精進していくことが必要である。